



小来川小学校

所在地：中小来川2817
児童数：41人、学級数：4学級

見て！聞いて！ わたしたちの学校



6年生の(左から)大橋純七さん、佐藤愛実さん、伊原翔太郎さん、福田寛さんに聞きました。

大橋さんに聞きました！ 将来の夢は？

調理師免許を取って、お父さんの仕事を継ぐことです。お父さんはスパゲッティやハンバーグが得意なので、洋食を中心に作りたいです。

佐藤さんに聞きました！ 小来川小学校の自慢は？

池のある庭園です。ここは春になると花が咲き、チョウなどがたくさん来ます。また夏は、トンボやカブトムシが来ます。秋は、紅葉がとてもきれいです。

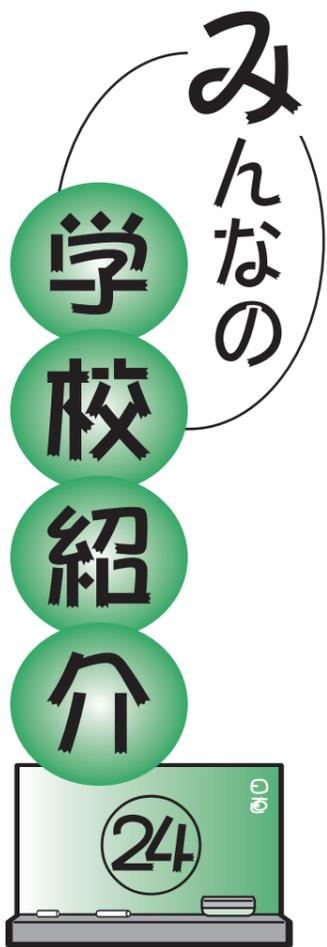
伊原さんに聞きました！ 好きな学校行事は？

集会活動です。「どろけい」や「バツタッチ」という遊びをします。1クラスでは人数が少ないので、全校児童で行くと、とても楽しいです。

福田さんに聞きました！ 今がんばっていることは？

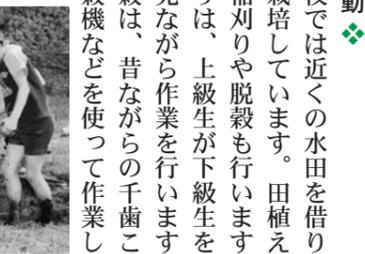
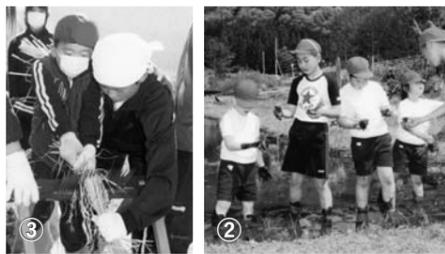
野球です。ポジションはピッチャーとファーストです。公式大会で、まずは1勝したいです。将来はイチローみたいなバッターになりたいです。

◆小来川小学校の紹介◆
小来川小学校は明治7年、円光寺の境内に仮校舎を設け、一求舎と称して開校しました。昭和50年には、中学校のある現在の場所に移り、新校舎の完成とともに小中学校併設となりました。
小来川地区は山に囲まれ、清流が流れるなど豊かな自然に恵まれています。近くにある学校林では、毎年5・6年生が中学生とともに下草刈りを行います。また、森林組合や製材所へ行き、



森林について詳しく学習しています。
小来川小学校は昨年度から、市の指定を受けて、小中一貫教育の研究に取り組んでいます。
その一つに、英語教育があります。外国人英語教師や英語指導助手、中学校の英語教師の協力を得て、1年生から6年生までがそれぞれ週1時間、英語を学びます(写真①)。授業は読んだり書いたりするのはなく、聞く・話すを中心とした内容で、英語の基礎的なコミュニケーション能力の向上を目指しています。
児童たちはゲームやクイズ、歌、劇などを通して体を動かしながら、楽しく英語を勉強しています。

◆稲作体験活動◆
小来川小学校では近くの水田を借りて、もち米を栽培しています。田植えから始まり、稲刈りや脱穀も行います。田植えや稲刈りは、上級生が下級生を教え、面倒を見ながら作業を行います(写真②)。脱穀は、昔ながらの千歯こきや足ふみ脱穀機などを使って作業しています(写真③)。



しみず ひあん 清水比庵 『大日光』の表紙原画を中心に

清水比庵は昭和33年、小杉放菴や徳川家正(徳川宗家17代目当主)とともに、旧日光市において初めて名誉市民となった人物です。京都帝国大学を卒業後、司法官を経て、安田銀行や古河銀行、古河電工に勤め、昭和5年から9年間、日光町の町長として活躍しました。

一方、中学時代から短歌に親しみ、『万葉集』に深く傾倒していた清水比庵は、日光の地において歌誌『二荒』を主宰し、歌人としても知られるようになります。また、ほぼ独学でありながら、書や画にも非凡な才能を発揮し、年齢を重ねるごとに独自の作風を築きました。

清水比庵は、数え年で76歳の昭和33年から、93歳で亡くなる昭和50年までの18年間にわたり、日光東照宮が発行する『大日光』の表紙絵を担当しました。今回の展覧会では日光東照宮の協力を得て、『大日光』の表紙を飾った作品の原画を一室に紹介します。

会 期：4月5日(土)～5月18日(日)(会期中は無休)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入 館 料：一般…700(300)円、大学・高校生…500(200)円、小中学生…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。右上にある市民割引券を切り取ってご利用ください。



清水比庵「牡丹」1962(昭和37)年
紙本・着色、軸装 33.3×24.4cm 日光東照宮所蔵

日光市の文化財 ⑭

日光市指定文化財 報徳仕法農家住宅



種 別 有形文化財(建造物)
指定年月日 昭和47年10月28日
【旧今市市指定】
所 在 地 日光市町谷

報徳仕法とは、二宮尊徳翁によって行われた財政再建政策のことです。市内では特に、農村の復興において成果が上がりました。
もともとこの住宅があった鼻では、村内全戸の生活安定を目指して、安政二(一八五五)年からの十二年間、尊徳の子である弥太郎たちの指導の下、村全体で徹底した復興政策が行われました。その一環として、経営の成り立たなくなった農家を相続した金助に、弥太郎が母家と灰小屋を新築して与えたものがこの住宅です。金助はこの恩に報いるため、三反八畝(約三十八アール)の荒廢した耕地を復旧させました。
報徳仕法農家住宅は、市内で行われた報徳仕法の成果を示す代表的な遺跡の一つであるだけでなく、今日まで残されている数少ない一般的な農民の住まいです。江戸時代末期の北関東における農村の生活様式を知る上で、重要な建築物といえます。

